

第42回（令和8年度） 石川町少年の主張大会

—今、私たちが伝えたいこと！—

作品集



主催 石川町青少年健全育成推進協議会

後援 福島民報社/福島民友新聞社/町民ニュース社/夕刊いしかわ新聞社

《 第 4 2 回石川町少年の主張大会作品 もくじ 》

・『命の大切さについて』	石川小学校	6年	すずき 鈴木	みゆ 美結	1
・『未来への希望と提案』	石川小学校	6年	めや 目谷	みづき 美月	3
・『本の楽しさを伝えたい』	石川小学校	6年	うすい 薄井	れな 玲那	5
・『見える基準と見えない基準』	石川中学校	3年	たご 田子	まゆき 莓幸	7
・『「嫌」と言う権利・言わない権利』	石川中学校	3年	くまがい 熊谷	えいと 英杜	9
・『「大好き」を大切に』	石川義塾中学校	3年	わたなべ 渡辺	つばさ	11
・『新しい一歩』	学法石川高等学校	1年	よしの 吉野	なるひこ 成彦	13
・『私ができることからひとつずつ』	県立石川高等学校	2年	こはら 小原	ゆりあ 由莉彩	15

《少年の主張大会の趣旨》

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次世代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝えて理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

少年の主張大会は、青少年にとってこれらの契機となることを期待するとともに、青少年の健全育成に対する町民の理解と関心を深めていただくことを目的として実施しました。

『命の大切さについて』

石川小学校 6年

すずき みゆ
鈴木 美結

私には大好きなひいおばあちゃんがいました。ひいおばあちゃんは、畑仕事が好きで、一日のほとんどを畑で過ごしていました。畑を耕したり、野菜を育てたりする姿は、とても生き生きしていて、今でも心に残っています。

ひいおばあちゃんの作る野菜の中で、特に私は、トマトが大好きでした。夏になると、一緒にトマトを採り、その場で食べました。太陽の光をたくさん浴びたトマトは、とてもみずみずしくて甘く、今まで食べた物の中で一番おいしいと感じるほどでした。ひいおばあちゃんはずっと

「おいしいね。」

と言って、うれしそうに笑っていました。その笑顔を見る時間が、私はとても好きでした。また、畑の近くの土手に座り、何気ない話をすることもありました。特別な話ではなく、学校での出来事や友達のことなどを話しました。ありふれた会話でしたが、私にとってその時間は、とても落ち着き、温かい気持ちになる瞬間でした。その時の私は、その時間がずっと続くものだと思っていました。

しかし、ひいおばあちゃんは、脳梗塞で倒れ体が思うように動かなくなってしまいました。施設に入ることになり、前のように話すこともできなくなりました。それでも、私がいに行き話しかけると、表情でこたえてくれました。その時私は、言葉がなくても気持ちは伝わるのだと感じました。その後、少しずつ体を動かすことも難しくなり、寝たきりの状態になってしまいました。そして今年の三月、ひいおばあちゃんは亡くなりました。もう一緒にトマトを食べることも、土手で話をすることもできないのだと思うと、とても悲しく涙が止まりませんでした。

これまで私は、「また今度でいい」といろいろなことを後回しにしてしまうことがよくありました。しかし、命には必ず限りがあり、「また今度」にすることができないことがあるということを知りました。ひいおばあちゃんとの思い出は、他の人に見せてみ

れば、特別な出来事のように感じないかもしれません。しかし、今の私にとっては、かけがえのない大切な宝物です。

ひいおばあちゃんと過ごした日々を通して、私は「命を大切にすること」は「今を大切にすること」だと考えるようになりました。決して大きなことを言っているわけではなく、誰かと笑ったり、過ごしたりする時間を大切にすることが大事であるということです。これから私は、家族や友達との時間を当たり前だと思わず、一日一日を大切にするとともに、人に対しても温かい接し方ができるようにしたいです。そして、ひいおばあちゃんがくれた温かい時間のように、今度は私が、誰かにとって温かい時間をつくれる人になりたいです。

『未来への希望と提案』

石川小学校 6年 目谷 美月

私が希望する未来は、世界の国々が戦争など起こさず平和に暮らすことです。

今世界では戦争が起こっていて、たくさんの人が苦しんでいます。テレビのニュースで映し出される映像は、とてもつらく悲しいものです。ホルムズ海峡封さでは、急げきにガソリンが値上がりし、石油製品も高くなり、私達は困り、不安になっています。

先日テレビのニュースで、戦争で苦しんでいる人のインタビューを見ました。

その人は、

「早くこの戦争が終わってほしい。家族に会いたい。おいしい物が食べたい。そして、幸せに暮らしたい。」

と、泣きながら話していました。

私の心から、その言葉がはなれませんでした。

四年生の国語で、「一つの花」を学習したことを思い出しました。この物語を通して、「戦争は起こしてはならない」ということや「平和の大切さ」について、深く考えさせられたことを覚えています。

そこで、どうしたら世界中から戦争がなくなり、平和になるか考えてみました。

私達が、直接戦争を止めることはできません。まずはどういう状況なのか、どんなことが起こっているのかを「知る事」から始めました。本やインターネットなどで調べてみると、いろんなことが分かりました。

「なぜ人は争うのか？」

資源や土地のうばい合い、価値観や考え方のちがい、権力や支配したい気持ちがきっかけになっているような気がします。

戦争で勝利しても、国民は本心では平和をもとめていると思います。たくさんのご

せいをはらったり苦しい思いをしたり、しなくても、話し合いや思いやりで防げるかもしれません。

「では、どうすれば平和になるのか？」

平和は、戦争がないことだけではなく、誰もが差別や貧困に苦しむことがなく、幸せに暮らせることだと思います。

私は平和な社会にするために自分でできることとして、次のことを考えました。ニュースをもっとよく見て世界の出来事に関心を持つ。困っている人がいたら、どこの国の人も立場も関係なく助け合う人になる。毎日の生活が当たり前でないことに気づき、感謝の気持ちを持つ。

平和は、遠い国の誰かがつくるものではなく、今日教室で勉強したり、一緒に遊んだりしている私達一人ひとりが、未来の平和をつくっていくのだと思います。

友達と仲よくしたり、相手の気持ちを考えたりすることで、小さな平和が出来ます。その小さな平和の積み重ねが、大きな戦争を防ぐ一歩になり、私達の希望あふれる未来へつながると思います。

『本の楽しさを伝えたい』

石川小学校 6年 ^{うすい}薄井 ^{れな}玲那

みなさん、本は好きですか。私は本を読むことが大好きです。今はホラーやミステリー、ナゾノベルシリーズ、学園物の本を読んでいます。私が本を読むようになったきっかけは学校で家読の記録をつけるようになったことです。読んだ冊数やページ数を数字で表すことでモチベーションが上がり、

「今月は五冊読めたから、来月は十冊読んでみよう。」

と、意欲がわきました。初めのころは学校の図書室や町の図書館だけを利用していましたが、今では本屋さんへ行き、気になる本を探すようになりました。私にとって本屋さんは、キラキラしていて、まるで別世界のようです。小さい子が読むような絵本から、大人の方が読むような難しい本まで、色々な本がたくさん並んでいます。そして、私の好きなジャンルの本もたくさんあり、読みたい本を選ぶのに迷ってしまいますが、それも楽しさの一つです。私にとって、本や読書の時間は楽しいものですが、友達の中には、

「読書かあ。たいくつだな。」

と思う人もいます。また、大人も「読書離れ」が問題になっているとニュースで耳にしました。私は、本を読む楽しさをもっとみなさんに知ってほしいと思うようになりました。

そんな時、学校で読み聞かせボランティアの方にインタビューをする授業がありました。ただ本を読み聞かせするのではなく、本の楽しさが伝わるように学年に合った本を探して、どのように読めば本の世界に入り込めるか、本を通してみんなと一体感が生まれるかなどを考えながら、毎回練習をしているそうです。だから、読み聞かせを聞いている私も本の世界に引き込まれるのだと思いました。また、「読み聞かせは受け継がれる物」だということを教えていただきました。親に読んでもらった本を、自

分が親になった時に子どもに読んであげるように——。本は親子のコミュニケーションであり、きずなをつなぐツールでもあることを知り、改めて本の力はすごいと思いました。

私は、本の良さをたくさんの人に知ってほしいと思います。学校で読みなさいと言われるから、宿題だから本を読むのではなく、興味をもった本やお気に入りの本を見つけて、楽しく本を読んでほしいです。なんでも良いのです。絵本でも、アニメやドラマ、映画などの原作や、好きなタレントの自伝でも。一人で読むのが大変なら、友達や家族と一緒に楽しむのはどうでしょう。私も、機会があれば読み聞かせをして、私が想像する本の世界へみんなを招待して、本の良さや楽しさを伝えたいです。

みなさん、本はすごい力を秘めています。その手にしているスマホやタブレットを一冊の本にかえてみませんか。そして、私と一緒に、本の世界へ冒険に出かけましょう！

『見える基準と見えない基準』

石川中学校 3年 田子^{たご} 莓幸^{まゆき}

長距離記録会が終わって、掲示板に張り出された自分のタイムを見た。そこに並んでいる数字を見て、私は他の選手たちと勝手に比べて、勝手に自分は遅いのだと判断し、勝手に「焦り」を感じてしまう。誰かに直接何かを言われたわけでもない。それなのに、勝手に他人と比べて自分を苦しくさせる。この気持ちが、私にとって身近な「普通」という言葉の正体なのだと思います。そんな「見える基準」に縛られている今の私について話したいと思います。

わたしの「モヤモヤ」や「焦り」の正体である「普通」という「見える基準」は、陸上競技では「タイム」という数字を指します。長距離走は、走っている最中、自分自身と戦い、向き合う種目です。トラックを回るたびに呼吸が苦しくなり、足も重くなります。練習でも記録会でも、そうなってしまうと、「もう辞めたい」「止まりたい」と思ってしまいます。そんな中でも、自分を励ましながら走り続けています。一秒でも早くゴールしたい。勝ちたい。自分自身との戦いをトラックの上で続けるのです。

しかし、記録会が終わって掲示板を見ても、残るのは「タイム」という数字だけです。その数字を他の選手たちと比べた瞬間、私は「自分の頑張り」を他人が決めた、記録という「見える基準」で評価し始めてしまうのです。「自分のもっている力を全て出し切った。」「全力で走った。」「という、精一杯努力できたかという基準は私にしか「見えない基準」だったからです。記録を他人と比べた瞬間に、「悪い結果だった。」「ぜんぜんダメだった。」「というマイナスの方向に気持ちが変わってしまいます。誰が決めたのかもわからない「見える基準」を自分の中に勝手に作って、自分にしか「見えない基準」を評価できず、勝手にモヤモヤして追い込んでしまうのです。

練習はきつく、辞めたいと思う日もあります。しかし、記録会、大会でスタートラインに立てば、やっぱり勝ちたい、誰よりも速くゴールしたいと思ってしまう。その「負けたくない」「もっと速くなりたい」という気持ちはウソではありません。私の中に「勝ちたい」という気持ちが間違いなくあるのです。しかし、様々な大会に出て、タイムが出なかったり、一年生の頃のタイムと変わらない記録が連続で続いたりすると、不安になって「数字」が怖くなります。勝ちたい気持ちがあるのに、「怖い」という気持ちもあるままでは絶対に勝てません。それは自分の弱さだと思います。ですが、いつまでも同じままではられません。私は今までの自分を乗り越えたいのです。そのために、タイムという「見える基準」だけで評価するのではなく、自分の努力、気持ちという自分にしか見えない基準で評価することも大切にしたいです。弱気になってしまう自分の心から逃げずに、一步ずつ前に進む強さをもてたか。こうした「見えない基準」で自分を評価できれば、たとえどんな結果が出てもそれを次の成長だと捉えられると思うからです。

これからは、数字ではなく、自分が頑張った証として、自分のタイムも大事にして、自分の足で走り続けたいと思います。これから先の記録会、大会で不安になることもたくさんあると思いますが、周りの目や数字ばかりを気にするのではなく、自分自身の「頑張り」を認めてあげること。自分を大切にしながら「自分らしい走り」をこれからも続けていきたいです。

陸上を通して気づいたこの気持ちは、私がこれからずっと大切にすべきことだと思います。

「見える基準」で誰かと比べて無理をするのではなく、自分にしか「見えない基準」で、目標に向き合っていくことが、自分も周りも大切にすることにつながると思うからです。

みなさんも自分の中の基準、大切にしていきませんか？

『「嫌」と言う権利・言わない権利』

石川中学校 3年

くまがい えいと
熊谷 英杜

「嫌」と言う権利について、みなさんは考えたことがあるでしょうか。「嫌」と言う権利はきっと誰にでもあるはずです。私はある二つの小さな出来事からそう考えるようになった。

一つ目は、従兄弟の家に泊まりに行った時のことです。その日の夕食には、私の大好きな餃子が出てきました。焼きたてで、とてもおいしそうでした。しかし、一つだけ気になることがありました。それは、餃子のタレを従兄弟と一皿で共有することです。家族にとっては当たり前のことだったのかもしれませんが、私はどうしてもそれが嫌でした。他人と同じタレを使うことに抵抗があったからです。

とはいえ、私はその場で「嫌だ」と申し出ることはしませんでした。言おうと思えば言えたはずでした。相手は叔母であり、家族のような関係です。決して言えない状況ではなかったのです。でも、私はあえて「言わない」という選択をしました。その結果、タレを使わずに餃子を食べることになりました。

二つ目は学校での出来事です。ある日、友達から「一緒にある人をいじめよう」と誘われました。その時名前が挙がった人は、私にとっても友達でした。私はその瞬間、はっきりと「それはできない」と断りました。どんな理由があっても、友達をいじめることは絶対にしたくなかったからです。

この二つの出来事を振り返り、私はどちらも自分の意志で選択していることに気づきました。一つ目の出来事では、嫌だと思いながらも言わないことを選び、二つ目でははっきりと「嫌」だということを選んだのです。この違いはとても重要だと思います。

「嫌と言えなかった」のではなく、「あえて言わなかった」こと。周りからの誘いに

対して、自分の意志で「嫌」だと言ったこと。大切なのは、自分の気持ちに対して、自分がどのように行動するかを選んでいるかどうかだと思います。

一つ目の出来事について、私は自分の選択を悪いとは思っていません。その場の空気や相手との関係を考え、あえて言わないことを選んだのです。それも一つの判断であり、間違いではないはずです。一方で、二つ目の出来事では、相手の言葉に流されず、自分の考えをはっきりと伝えることができました。これは自分の中で、譲れない価値観があったからです。

学校という社会を見回すと、さまざまな人がいます。はっきりと「嫌」と言える人もいれば、そうだと言えずに我慢をしてしまう人もいます。そして私のようにあえて言わない選択をする人もいるでしょう。それぞれが異なる価値観や考え方をもちながらも、全体として一つの社会が成り立っているのです。

「『嫌』という権利」とは、単に「嫌」と主張することだけを意味するのではないように思います。大切なのは、自分の気持ちをどう扱うかを、自分で選べることではないでしょうか。「嫌と言う権利」があるならば、「言わない権利」もあるはずです。その選択が自分自身の意志によるものである限り、どちらも尊重されるべきです。

これらの経験を通して、私は「嫌という権利」の意味を深く考えることができました。これから先も、自分の気持ちと向き合いながら、言うべきときには言い、言わないと決めたときにはその選択の責任をもてるようになりたいです。そして、周り人の選択も同じように尊重できる人でありたいと思います。

『 「 大 好 き 」 を 大 切 に 』

石川義塾中学校 3年 ^{わたなべ}渡辺 つばさ

まず、一つ質問をさせて下さい。皆さん、今日家を出てからここに来るまでの間、自分の心のままに行動した瞬間はありましたか？きっと、自分が担う義務を果たすのに精一杯だったのではないのでしょうか。こんな毎日が続くと、心のエネルギーも切れかかってしまいます。だからこれからは、「大好き」という気持ちを軸に生きてみませんか。なぜなら「大好き」という気持ちは、日々を幸せに生きるための一番の原動力になるからです。

大好きなことに没頭することは、いわば心のエネルギーを満タンにする行為です。義務感で無理に自分を動かすのではなく、自分の内面から溢れる力で行動する。これは本来、人が幸せに生きるために無くてはならない仕組みです。では、どうすればそれが出来るのか、具体的なステップを紹介します。

ステップ1は、まず自分の「大好き」を発見することです。皆さんの中には、好きなことがわからないという人も多いかと思います。ただ、実は、好きなことというのはもうすでにやっていることなのです。さらに言うと、皆さんが「ついやってしまうこと」の中に隠れています。今までの人生を思い返してみてください。知らず知らずのうちに、お金や時間を費やしたものは何ですか？ゲームやスポーツ、読書など、一つ何か思いついたでしょうか。それがあなたを動かす一番の原動力です。

ステップ2は、自分の大好きなことを分析することです。例えば、先ほど挙げた「ゲーム」、ただ時間が潰れるから好きなのか、戦略を立てることが好きなのか、はたまた友達と戦うのが好きなのか。「ゲーム」とひとまとめに言っても、心のガソリンの源は人によって異なります。だから、自分の「大好きな核」を探してみましよう。私の場合、絵を描くことが好きです。なので、私のガソリンの正体は「黙々と作業をすること」や「自分の世界を表現すること」などなのかなと考えました。

最後にステップ3です。こうして「大好きな核」を発見したら、それを自分自身の活動に取り入れてみましょう。大好きな核が「自分の世界を表現すること」ならば、イラストや絵画はもちろん、学校でのスライド制作の際には凝ったデザインにしてみたり、作文に自分の意見をひたすら書いていく。そうすると、心のガソリンはどんどん満たされていきます。「活動に取り入れる」と言っても、好きなことをそのまま仕事にする必要はありません。ゲームが好きだからといって、プロゲーマーになれ。ということではありません。仕事そのものが「大好きなこと」でなくても、そこに「大好きな核」があれば、人は心のガソリンを燃やし、エネルギーを持って取り組めるのです。

だから、もし大好きなことで失敗したとしても、上手くいかない時期があったとしても、あなたの「大好きなこと」の中には、あなたの人生を幸せに生きるための力、原動力が眠っています。まずは自分の「好きなこと」を見つけ、それを人生のコンパスにしていきましょう。まずは今、自分がついやってしまうことは何か、考えてみることから始めていきませんか？ご清聴ありがとうございました。

『 新 し い 一 歩 』

学法石川高等学校 1年

よしの なるひこ
吉野 成彦

私は去年の4月に、東京の学校からここ福島へ転校してきました。私は親から「福島のおばあちゃん、おじいちゃんの家に行くことになるかもしれない」と聞いた際、不安や辛い気持ちよりもむしろ、「向こうではどんな人たちと出会えるんだろう」という、ワクワクとした気持ちの方が大きかったです。確かに今までずっと当たり前にあったものや友達と離れてしまうことの寂しさや悲しみはありましたが、この経験は何かの終わりではなく、次へ進む新しい一歩だと思いました。

東京で暮らしてきた日々には、たくさんの思い出があります。毎日友達と一緒に行き来していた通学路、自転車で登った坂道、街のにおい、身の回りにあるすべてのものに大切な思い出が詰まっていた。このような身の回りにある小さなたくさんの思い出が、新しい環境に来て初めて、自分にとってどれだけ大きな存在だったのかと気づきました。ただ、これらのたくさんの思い出がなくなることはありません。いつまでも自分の中にあり続けます。だからこそ私は新しい環境へ行くことに対し、あまり不安などがありませんでした。

また、福島に来てからは様々な出会いがありました。新しい家、新しい学校、そして新しいクラスメイト。緊張やわからないことばかりでしたが、みんなが声をかけてくれたのですぐに友達ができ、楽しいことが増えました。このように、最初は緊張やわからないことばかりでしたが、周りの人たちが声をかけてくれたり、一緒に笑ったりできたおかげで、少しずつ緊張がなくなり、会話が増え、一緒にいる時間も増えてきました。ここでの思い出が増えていくたびに、一歩踏み出して良かったと思いました。

そのほかには、今まで東京にいた時の当たり前や常識が福島にきて少し変わりました。東京と福島の二つの場所で生活をしたことで、東京の生活で良かったこと、東京

で生活してきたからこそわかる福島の良さ。どちらが良いとか悪いとかではなく、どちらも良いところがたくさんあります。見える景色や感じ方の違い、一歩踏み出したからこそ感じられたこの変化は、自分を成長させてくれる大切なことだと思いました。この変化を、これから出会う新しい環境でも感じられると思うと、次に一歩踏み出す際の自信にもなってくるでしょう。だからこそ私は、ここ福島に来て良かったなと思いました。

今回の経験から、「新しい環境へ進んでも自分はやっていける」という自信がつかまりました。そして同時に、自信をつけるためには勇気をもって最初の一歩を踏み出すこと。そこでの出会いや生活を通して見え方や感じ方の違いを経験し、その大切さを学ぶことが大事だと思います。この経験から、一歩、そしてまた一歩と新しい環境へ進んでいくことができるのが、人生の素晴らしさだと感じています。

新しい環境へ進むことは、終わりではなく新しい出会いの一歩でした。これからも私は、新しい環境への一歩を躊躇せず、それまでの場所や出会えた人たちとの思い出を胸に、自分の中の大切なものを増やしていきたいと思っています。

『私ができることからひとつずつ』

県立石川高等学校 2年 こはら小原 ゆりあ由莉彩

私は今回、生理で困っている人の力になりたいと思い、少年の主張に参加しました。

近年のニュースやメディアの報道において、生理貧困、生理休暇、生理痛について取り上げられることが、多くなりました。これは、少しずつ女性が過ごしやすい環境が整えられていることを示しており、また、男性にも生理について知ってもらう機会が増えていることにもなっています。一方、問題も多く存在しています。例えば、生理の悩みや不安を相談できる人がいない、生理用品を購入することに苦労したことがある、心無い言葉をかけられたなどです。私たち女性の悩みは多く、私も体育の授業、水泳、部活動、試験などあらゆる場面で生理に悩まされたことがありました。また、友達から生理のことで苦労している話を聞いたこともありました。このように多くの女性が困ったことに直面した経験があると思います。

生理は、年齢問わず、辛さも痛さも悩みも人それぞれです。そのため生理への対策が必要だと思います。少しでも良い方向に前進できるように二つのことを提案します。

一つ目は、生理用品を全国の教育施設や公共施設のトイレに設置することです。私は、実際に無料で生理用品を常設してある場所を見たことがあります。その時、女性への配慮がされていて嬉しく感じました。それと同時に、このような環境が少しでも多くの場所に広がったら良いと思いました。生理になったばかりのころは、生理用品をトイレに持っていくことが難しかったりします。急に生理になってしまい困ったりした時などには、とても助かり安心することができます。また、生理は月に一回一週間ほど続き、それらが年に十二回あります。日数にすると約三ヶ月ほど、一生のうちに数十年と続きます。その間、経済的な負担もあります。誰もが生理用品を手に取りやすいような対策が必要だと思います。

二つ目は、生理の不安や悩みを相談できるコミュニティの場を身近に設けることで

す。生理の悩みは年齢や、体調、個人によって違ってきます。イライラしたり、落ち込んだり、些細なものに過敏に反応したりしてしまいます。精神的な不調も多く現れます。私自身初めのころは、生理は隠すものという概念が強くありました。そのため、心身に不調があるときに誰かを頼ることをためらっていました。しかし、実際に話してみると周りには寄り添ってくれる人や機関があると気づきました。精神的な問題は自分一人では解決することが容易でない場合もあります。他にも、月経不順、生理用品、生理の時の対策など身体的な困りごともあります。そのような時、身近に話しやすい環境があることでつらい思いをしている人や困っている人を救う一歩になると考えます。

最後に、生理は周りの方々の理解も必要です。生理の辛さや悩みに基準はありません。体調が優れない人がいたとき、困っている人を見かけたとき「大丈夫?」「無理しないでね」など温かい言葉が増えたら良いと思います。生理について少しでも理解をしてもらうことで話しやすい環境が生まれます。どんな時でも、言葉で支えたり、助けたりできます。

これから生理を経験する人も、生理によって苦悩している人も、少しずつ、笑顔でいられるような環境や、価値観になってほしいです。

さらに、今回の生理のみならず、女性の問題にも目を向けてほしいです。たとえば、日本での女性管理職の数が少ないことや、望まない妊娠・出産をする女性が後を絶たないことです。また、世界の中には、女性が十分な教育を受けられない国があり、この問題も改善してほしいと考えます。生理についても、今回挙げた事柄以外にも対策が必要です。誰もが、幅の広い選択肢を得られ、柔軟に対応してもらえる環境が増えてほしいです。

明るい未来に一步步進むことができるように、社会の理解が進むことを願っています。

第42回（令和8年度）
石川町少年の主張大会作品集

石川町青少年健全育成協議会

〒963-7852 石川町関根 165 石川町教育委員会生涯学習課

電話 0247-26-2566 FAX 0247-26-4992

